

茨南だより

いばらき教育の日

3 S

察知

+ 1

誠意

NO. 7

スピード感

2025.11.5

改革意欲

県南教育事務所長
佐藤 賢信

長かった猛暑の日々も終わり、ようやく秋の気配が感じられるようになってきました。しかし、秋らしい秋は短くなりそうです。

さて、茨城県では条例に基づき、毎年11月1日を「いばらき教育の日」、11月を「いばらき教育月間」とし、県民に教育に関する関心と理解を深めてもらうための取組を推進しています。

条例の目的は、「県民の教育に対する関心と理解を深め、学校、家庭及び地域社会が連携して本県教育の充実と発展を図ることにより、豊かな心と確かな学力を備えた明日の茨城を担う子どもたちを育成するとともに、生涯にわたって自ら学び、郷土を愛し、地域社会の形成に主体的に参画する人づくりを進めるため」です。

各校で、様々な取組を計画していることと思いますが、子どもたちに、「いばらき教育の日」や「いばらき教育月間」の目的を伝えていただき、保護者・地域と連携して、改めて「教育」を考える機会を設けてください。

人事課

★ 笑顔いっぱいの学校を目指して ★



管内公立小・中・義務教育学校201校の所長・人事課長訪問、管理主事訪問を終了しました。児童生徒のよりよい成長に向け、それぞれの学校の実態に応じた創意工夫を数多くみることができました。ありがとうございました。

ある訪問時の面談で、「一日の中で楽しいと感じるのは、授業です。子どもたちと（課題について）やりとりしながら、授業をしている時間が一番楽しいです。」と笑顔で話す先生がいました。校内研修にも積極的に参加したり、相互授業参観をしたりして主体的に学んでいる様子が見られました。教師の学びに向かう姿は、子どもたちのロールモデルとなることでしょう。現在、教員評価に係る達成状況についての進捗状況及び人事評価に係る後期の業務目標達成に向けた取組の確認が行われていることと思います。学校の組織目標を踏まえた自己目標の達成に向け、これまでの自身の教育活動を評価するとともに、改善への取組をお願いいたします。一人一人が「探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師」（※より抜粋）を目指することで、さらに笑顔いっぱいの学校となることを期待します。

※「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について

～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～

令和4年12月19日 中央教育審議会答申



10月16日（木）に県南教育事務所において、令和7年度の道徳教育推進教師代表者研修会を実施しました。

これは、「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行うため、道徳教育を推進する人材の育成をねらいとするものです。

研修の前半は講師として、守谷市教育委員会 鈴木優子教育指導課長をお招きし、「考え、議論する道徳の授業づくり」についての講義と演習を行いました。

後半は、グループで講演動画、授業動画等を活用した各学校への伝達

- ・共有についての情報交換を行うとともに、指導主事により、各市町村立学校への道徳教育の推進を図るための助言を行いました。

<参加者感想（一部抜粋）>

- ・ねらいの定め方や児童の実態から本時で学ばせたい道徳の諸様相を考えることが大切である点が印象に残った。
- ・道徳は研究すればするだけおもしろくなると思った。
- ・価値への理解を教員が深めていくことの重要性を理解できた。



市町村教育委員会より



守谷市教育委員会

未来のもりやウェルビーイングディイベント ～みんなが幸せになれる未来の学校を考える～

『子どもたちの声を聴き、より良い学びの環境を築いていくためには?』『子どもも教師も「ウェルビーイング」を実感できる学校を創り上げるために、必要なこととは?』

守谷市は、これらの問い合わせに向き合い、試行錯誤やチャレンジを続けています。今回は、8月26日（火）に行われた「未来のもりやウェルビーイングディ」を紹介します。本イベントは、市内公立小中学校の全教職員を対象に、これまでに日々の教育活動において顕著な成果を上げている教職員を労う「教職員表彰」、市長・教育長と児童生徒（小中、高校生）、本市出身の大学生が教育について語り合う「ウェルビーイング・ミーティング」、「子どもと先生のウェルビーイング」講演会の三部構成で実施しました。



中でも、「ウェルビーイング・ミーティング」では児童生徒が考案した「わたしたちの考える未来の学校」について、児童生徒で編成されたグループで白熱した議論が展開されました。前半のグループ協議では、「コミュニケーション力や社会で生きる力を身に付けるために地域の人といつでも交流できる学校が必要」「教科書の知識だけでなく生きた学びを体験したい。専門家による授業を受けてみたい」など、現在の学校生活から課題を見いだし、解決に向けた具体的なアイディアが市長、教育長に提案されました。児童生徒からの提案に対し、サポートとして参加した大学生は、「学校で学んだことを課題解決に生かしたり、堂々と自分たちの意見を発表したりする姿を見て、守谷の未来を動かす力をもっていると感じ、後輩として頼もしい」と児童生徒のアイディアの深さや真剣な姿に感銘を受けていました。また、市長、教育長からは、「自分たちが勉強したいことを勉強し、興味があることをもっと深めたいという向上心を感じた」「未来の守谷の学校の理想像が見える素晴らしい話し合いであった」という言葉が児童生徒にかけられました。

さらに、講演会では、先生の幸せ研究所・所長の澤田 真由美先生から、児童生徒と教職員のウェルビーイングをテーマにお話いただきました。講話を聞いた教職員からは、「自分の時間にゆとりをもつこと（自助）が、児童生徒の幸せに直結すると実感した」「助け合い（共助）で互いにゆとりを創出したい」といった感想が寄せられました。教職員が自身の働き方を見つめ直し、心のゆとりをもつことが、結果として児童生徒の成長や幸せに直結することを改めて認識する機会となりました。

守谷市教育委員会は、今後も児童生徒一人ひとりが自分らしく、心豊かに成長できる「ウェルビーイングな教育」と「教職員のウェルビーイングな働き方」を確立できるよう、支援を続けていきます。